

# 印刷営業マン



## あるあるネタ

- 色校正の用紙を見ただけで「CMYK値」まで読み取れるようになる。
- 「この紙、四六判？コート？あ、110kgだな」と触感だけで用紙を判定。
- 街中のチラシを見ると「この仕上がり、うちでもっと綺麗に出せたのに」と悔しくなる。

## 初期の失敗

新人時代、納期を詰めすぎて工場に無理をさせてしまい、印刷不良を起こしたことがあります。「納期より品質、でもその両立が営業の使命」と叩き込まれました。

## 職業病

名刺交換時に紙質・印刷方式・表面加工を分析してしまい、「これはマットPPですね？」とつい言うってしまう。紙を触るとすぐ目が覚めるという特技も…。

## 健康問題

納期や校了対応による不規則な労働、長時間の外回りによる足腰の疲労、また取引先との折衝ストレスで胃を壊すこともしばしば。気づけばカフェイン中毒寸前のときもあります。

## その職業に就いている人を讃える

あなたはまさに“紙に夢をのせる伝達者”ですね。数千枚の裏に隠されたひとつひとつの思いやブランドイメージを、色と紙と仕上がりで形にするその姿は、まるで“伝えるデザインの翻訳者”。納期に追われながらも、仕上がりのツヤにまでこだわるその執念が、印刷物に命を宿してくれています。今日もインキの匂いをまといながら走るあなたに、感謝と拍手を。どうか、自分の「版ズレ」には気をつけて、これからも“最高の一枚”を届けてください！